

## 「物申す会」でのインフレターゲット論議

「物申す会」では、これまで三回にわたってインフレターゲットをテーマに議論を重ねてきた。一回目はインフレターゲットの印象を述べ合う段階にとどまった。このとき個人的に感じたのは、各人がインフレターゲット論者の主張する内容を十分理解し切れていないのではないかという反省であった。

そこでインフレターゲット論を実際に主張する専門家をゲストとして招くことを考えた。そこで、経済倶楽部理事であり経済倶楽部での講演もしばしばされている原田泰・早稲田大学教授にご出席をお願いしたところ、快諾が得られた。昨年9月21日の物申す会で、原田教授から、当時、未発表の論文「どうすればデフレ期待から脱却できるか」を事前の資料としていただき、参考文献として岩田規久男・学習院大学教授著「日本銀行デフレの番人」を推薦いただいた。

るか。その場合の日銀の独立性について。

- ・ 為替市場、株式市場の今後の動き。
- ・ 実物経済の上昇につながるか、失業率の減少や給与所得の上昇がいつごろ現れるか。
- ・ 消費者物価が上昇して2%近くまでいったとき、長期金利の上昇、国債の下落に銀行は耐えられるか。

- ・ 円安が韓国、中国から批判を受けないか。
- ・ しつかりと今後の動きを見守りつつ、年内には四回目の討議を開催したいと思っている。(山本 建治)

## 「物申す会」40回の節目に古事記

会員の勉強会である「物申す会」はすっかり定着し、政治経済社会を論じ合っただけという間に規定の2時間が過ぎてしまうのが毎回のこととなっている。昨年12月の第40回の節目には久しぶりに文化のジャンルに踏み込み、これも節目である「編纂1300年の古事記」を取り上げた。

デフレから脱却するには、インフレターゲット目標の設定と金融緩和が決定的に有効であると強く主張する教授の見解は、同時にこれまでの日銀の政策に対する強い批判でもあった。メンバーから出された疑問についても、明快な返答をいただいた。デフレが貨幣的現象であるとすれば、それを変えるには貨幣の供給量を操作しなければならぬとする論理は明解であり、私には納得がいくものだった。

11月の総選挙で、インフレターゲット目標設定を主張した安倍総裁の自民党が圧勝した。これを好感して為替市場では円安方向に動き出し、株価も大きく上昇を始めた。これを受ける形で、1月18日の物申す会では「安倍政権とインフレターゲット政策の展望」をテーマに取り上げた。日本がインフレターゲット政策を遂行していくと、どのような金融・経済の変動が起きるのかを探り、問題点を検討した。主な論点は

- ・ 日銀はインフレターゲット2%目標を正式に宣言す

古事記への会員の関心は深く広く、膨大な参考資料とコピーが出席者に配布された。古事記の中の歌謡に惚れ込んで日夜研鑽しておられる方、アフリカをスタートにユーラシア、インド、中国などを経由した人類のルーツにまつわる大河文学として古事記を読み解く方、日本書紀との比較に興味をもつてその視点から論じる方など、報告も多彩だった。一同、声を出し合っただけ古事記の一部を斉唱したりもした。普段よりも多くの参加者を得て、議論は大いに盛り上がった。

引き続き「三忘年会」を開催した。各自が自己紹介を兼ねた自由なスピーチをしたが、昭和10年10月10日生まれだという方、旧国鉄で運転部長を務めた方、旧満州での日本人の目を覆いたくなるような振る舞いを紹介した方、80代となり今後はエッセイを毎日書いて本にしたいという方、各人各様の自己紹介や思い出話などが続き、会員同士の改める親睦にも大いに役立つパーティとなった。(深瀬 勉)